幼児期の主体性のある遊びは、ずばり！！「学習」です。

【遊びの中で学べるもの】　【遊びは友達同士が先生になる】

1. 言語・コミュニケーション能力
ごっこ遊びやおしゃべりを通じて、語彙や表現が増える。友達にルールを説明したり、相手の話を聞いたりする中で、対話力が身につく。絵本や歌遊びで、言葉のリズムや文の構造を学ぶ。

2. 認知的スキル（考える力・理解力）
ブロックやパズルで、形・数・順序・空間認識などを学ぶ。「こうしたらどうなる？」という試行錯誤を繰り返すことで、問題解決能力が育つ。観察・比較・記憶といった思考の基礎が身につく。

3. 社会性・協調性
友達とのやり取りから、ルールや順番を守ることを学ぶ。けんかや仲直りの経験から、感情のコントロールや共感力が育つ。一緒に遊ぶことで、協力する楽しさや、役割分担を体験できる。

4. 身体的発達（運動能力）
走る・跳ぶ・登るなどの粗大運動（大きな動き）で、体力やバランス感覚を養う。積み木、ハサミ、絵を描くなどの細かい動きで、手先の器用さが育つ。

5. 創造力・想像力・表現
お絵描きや工作で、自分のイメージを形にする力が育つ。ごっこ遊びでは、空想の世界を自由に作り出す。ルールのない自由な遊びから、柔軟な発想力が養われる。

6. 自己肯定感・達成感
自分で考えて何かを作る、できるようになる経験が、自信になる。褒められたり、認められたりすることで、「自分は大切な存在だ」と感じられる。失敗も含めた体験を通じて、挑戦する気持ちが育つ。

まとめ：遊びは「学びの原点」で「遊び＝学び」
幼児にとっては、自由な遊びがそのまま学びの場です。大人が教え込むよりも、自分で「やってみたい！」「どうなるかな？」と感じながら取り組むことで、深く・楽しく・長く身につきます。そして、お友だちの真似をすることも大切な学習です。その子なりのペースがあるので大人が頑張りすぎると受動的になってしまうので気をつけてあげましょう。幼稚園では大人が主体となって活動すると、遊びが学習にならないので、子ども達の発案、発想でできる遊びを中心に組みててられる様に活動しています。